

## 賛助会員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

株式会社ヤクルト本社研究所 (〒186-8650 東京都国立市谷保 1796)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 (〒500-8148 岐阜県岐阜市曙町 4-15)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

(株) 環境総合テクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒140-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

## ご投稿をお待ちしています

「藻類」は皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の報文（記事等）のご投稿もお待ちしております。ご投稿に際しましては、次頁の投稿案内（2013年3月27日改正）をご覧ください。（編）

### 編集後記

先日（8/24）NHK スペシャルでマリモ特集が放映されました。私事で恐縮ですが、数年前の卒研究生がマリモに興味があり、北海道大学の先輩である若菜さんをお願いして、マリモ研究を始めさせていただきました。今回のNスぺのために私が阿寒湖に伺った際に撮影した部分は全てカットでした

が、研究室の学生が苦勞して撮影したマリモ生長タイムラプス動画が放映で使用されました。

マリモの不思議に惹かれ、毎年、阿寒湖に数回出向き、若菜さんと杯を酌み交わしながら、マリモ談義に花が咲く時間を楽しんでいます。環境適応学的にも保全生態学的にもまだまだ謎の多いマリモに興味を尽きません。（畠田智）

### 表紙

ガラモ場 鹿児島県錦江町。

### 作成者より

鹿児島湾の沿岸には、各地に豊かな藻場が形成されています。温帯域の代表的な藻場といえばアラメやカジメの海中林が有名ですが、カジメ類が分布しない鹿児島湾では、ホンダワラ類のガラモ場が唯一の「海藻」の藻場になります。本号に掲載されている豊谷らの報告によって、最近の藻場の分布状

況が把握されましたが、鹿児島湾は温帯や暖温帯、亜熱帯域のそれぞれに見られるホンダワラ類が混生するエコトーンであることを改めて実感しました。ホンダワラ類の種構成はこの数十年間で大きく変化しているようですが、磯焼けで藻場が消失している場所もあります。変わりつつある環境の中で、藻場を保全する活動が漁業者や様々な枠組みで取り組まれています。藻類の基礎研究と指導を通して、これらの活動を支えていきたいと思っています。

（寺田竜太・鹿児島大学）